

インゲン新品種

『(仮称)アルハマ (BN-118)』栽培の試験導入について

あまみ農協与論事業本部
営農販売課 竹下 義秀

1. 与論島の概要

東洋に浮かぶ真珠に例えられる与論島は、琉球列島のほぼ中央、奄美諸島の南端に位置し、沖永良部島まで約32.5km、沖縄本島北端の辺戸岬まで約28kmの距離にあります。ここは周囲をサンゴ礁に囲まれた美しい海と年中温暖な気候を求めて多くの観光客が訪れる島です。

島の総面積は20.82k㎡で、南北が5km、南西6km、周囲23.65kmの底平な形状であり、島の約53%が農耕地となっています。人口は約2,000戸で5,800人の住民が暮らしており、年間平均気温は22.4℃と温暖で、年間降水量は約1,700mmです。

2. 与論のインゲン生産状況

与論島のインゲン栽培は、昭和45年から始まり、現在栽培面積18ヘクタール生産者173戸生産量139トン販売額1億2千万円の実績となっています。

インゲンに取り組んだ理由として、温暖な気候や土壌条件があっている事や輸送コストの比較的少ない軽量で高単価な品目として栽培に取り組んだのが始まりです。

1、最も多く栽培されている

矮性インゲン栽培

(露地栽培からハウス栽培までおこなわれている。高齢者でも栽培出来る。)

2、インゲンの長期どり栽培

(ジベレリン処理栽培)

低中節位(2~5)の節間伸長促進・低中節位の過繁茂が無く曲がり莢が少なく品質向上・収量増・楽々収穫。特に低中腰作業からの解放

3、新品目として取り組んでいる

つるキセラ『アルハマ (BN-118)』

3年前より、ハウスでの長期どり栽培において、半つる性のBN-118を試験栽培しております。

キセラのジベレリン処理栽培では、1株毎に支柱が必要である点、ジベレリン処理の効果の違いにより丈にばらつきが出る等の欠点もあり、つる性でキセラタイプ品種の要望もあり試験導入を行いました。



与論島風景



矮性品種キセラジベレリン処理栽培

評価においては、キセラに比べ長期間の収穫が可能である。二番莢以降の品質の低下が少なく、曲がり莢が少なく、秀品率も高い。多収等良い評価が得られております。

特に低中腰作業から収穫作業も楽々出来るようになりました。

最後に与論のインゲンは、温暖な冬春期の気候を活かし、生産者と関係機関一体となって面積の拡大を図りな

がら、安心・安全で高品質なインゲン栽培の産地育成に取り組んでいきたいと思っております。



半つる性品種BN-118の草姿